

令和5年度 大田区区民協働推進会議（第4回）

日時：令和5年12月21日（木）

場所：本庁舎202会議室

【議題】

- 1 令和5・6年度調査研究テーマ（案）について
- 2 協働取組事例紹介について
- 3 その他

【出席者】

委員：中島・牛山・安武・中平・和田・濱住・酒井・久保（代理）・前田（代理）・芦川・中原

事務局：地域力推進部長・区民協働担当課長・区民協働担当係長・協働推進アドバイザー1名

【会議録】

事務局	<p>それでは、定刻を過ぎましたので、令和5年度第4回大田区区民協働推進会議を始めさせていただきます。第一生命さんの芦川委員が、15分程度遅刻されるということで、ご連絡いただいています。また、山本委員は、町会会議のため欠席との連絡をいただいております。</p> <p>ただいまの時点で委員11名のうち9名の方にご出席をいただいております。過半数に達しておりますので、大田区民協働推進会議設置要綱第6条の規定に基づきまして、会議は、有効に成立したことをご報告申し上げます。また、本日は、岩井委員の代理としまして、日本生命保険相互会社、東京ベイエリア法人職員チームにより久保様にお越しいただいております。</p> <p>本推進会議につきましては、議事録作成のため録音をさせていただきます。ご了承願います。</p> <p>それでははじめに、中島会長にご挨拶をお願いいたします。</p> <p>《会長挨拶》</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>それではここからは、中島会長に進行をお願いいたします。</p>
会長	<p>「令和5年度・6年度調査研究テーマ（案）」について、事務局より説明をお願い申し上げます。</p>
事務局	<p>大田区民協働推進会議「令和5・6年度調査研究テーマ（案）」について、ご案内いたします。</p> <p>この区民協働推進会議が、今回2年が1任期という形で、この委員の皆様で助成金の審査であったり、会議の議論をしていただいたりと、その会議の重要な仕事としまして、連携・協働に関する調査研究をしていただき、それをまとめていただきます。</p> <p>今年度、まず、そのテーマというものを決定いたしまして、令和6年度、翌年度に本格的にその調査研究に着手していただくというような運びになります。</p>

	<p>今回の令和5・6年度は、いつも協働推進アドバイザーにアドバイスをいただきながら、事務局として、こちらの案を示させていただきました。</p> <p>今回の研究のテーマ（案）としましては、区民活動支援施設の充実という形で仮り題として書かせていただいております。大田区には、蒲田と大森、蒲田のほうには、区民活動支援施設蒲田、m i c s おおたという愛称ですが、区民活動を支援する拠点が、蒲田の一つございます。そして、こらば大森という、区民活動施設の大森という所になりますが、大森西二丁目の所に区民活動支援施設が今あり、この二つが、今拠点としてあります。</p> <p>こらば大森は、大森第六小学校が廃校になったことを契機に、地域コミュニティの拠点として誕生し、これまでやってきましたが、今回、その複合庁舎の大規模改築というところも伴いまして、一旦、そのこらば大森が区民センターのほうに、一時仮住まいをした後、令和11年度4月に予定ですと、今の所にリニューアルした所に新たに区民活動支援施設として、また、スタートするような運びとなります。</p> <p>また、施設が新しくなるというところで、区民活動の拠点となるべく、大きな分岐点になるかどうかと、この施設の在り方というのを我々区側だけではなく、区民協働推進会議の委員の方々から広くご意見をいただきながら、どのような形で今後、その区民活動というのを支えていくべきなのかとか、今後のその区民活動の施設の在り方や、地域の拠点となり得る施設というものは、どういった機能を持ったものがふさわしいものなのかというのを、皆さんにお話・議論をしていただきながら、その形・在り方みたいなものを模索・形を決めていければなということで、案として、示させていただいております。</p> <p>令和3・4年度の大田区民協働推進会議の活動報告書「高齢化人口減少社会を見据えた連携・協働の在り方」に関する調査研究の中で、更なる連携・協働の推進というところで、中間支援機能の強化というところを挙げさせていただきます。</p> <p>こちらがまさに、その中間支援機能というのが、そのNPOであったり、さらにその任意団体とか、NPOとかを支援していくような機能というのが交ざっていると中間支援機能となりまして、さらに、その機能を、この施設がリニューアルされることによって、より一層高めていくことが、連携協働推進により重要ではないかという、もう前回は報告書の中である程度結論付けられて、今後、こちらの部分をより掘り下げて、区民活動をどう支援していくか、どう活性化させていくかということをご皆さんにお知恵を拝借しながら、考えていければということで、皆さんのご意見をいただければと思います。</p> <p>事務局からは、一旦、以上になります。</p>
会長	<p>ありがとうございました。ただいまの説明につきまして、質問・ご意見がございましたら、お願いいたします</p>
牛山委員	<p>ありがとうございます。テーマとしては、区民活動支援施設機能の充実ということで、この区民活動支援施設の在り方について研究するということですね。必要なことだと思います。</p> <p>細かいことは、また後で事務局にお知らせしたいと思いますが、ここに書いてある趣旨はそのとおりで、ただ、「行政による社会サービスの提供」という文言が、何</p>

	<p>か分かりにくいし、正確でもないような気がします。</p> <p>それと、この最後の段落で、この行政と地域の間立つというのがどういうことなのかというのが、この大田区民活動支援施設大森は、こらぼ大森ですね。それから、m i c s おおたというのは、これは、区の施設なんですか。運営主体は。</p>
事務局	<p>今は、委託しています。</p>
牛山委員	<p>委託して、それはどこに委託しているのか。どこというのは、つまりその企業とか、あるいはNPOとか。</p>
事務局	<p>NPO法人と一般社団法人になります。</p>
牛山委員	<p>最近、いわゆる昔から言ってきた中間支援組織という言い方で、NPOの例えば市民活動支援センターとか、まちづくり支援NPOとかありますけど、私もその専門ではないのですが、その専門の人に言わせると、イギリスとかでは、行政と住民の間に市民活動団体があるという言い方がおかしいと。基盤整備、要するに基盤をつくっていくベシックか組織みたいな言い方をするみたいです。</p> <p>だから、ちょっとここは、確かに立ち位置、この団体というか、あるいはこの施設のみたいなものに関わるので、ちょっとその表現について工夫をしていただけたらいいのかなと思いますので、また、その辺を精査していただければと思います。</p> <p>以上です。</p>
事務局	<p>この案を着想するにあたって、一緒にアドバイスをいただいた協働推進アドバイザーからもお話いただければと思います。</p>
協働推進 アドバイザー	<p>調査の趣旨につきましては、お話があったとおりでございます。このレジュメ上ですと、この調査研究の目的は、区長に対して報告の提出になってはいますが、この調査研究自体の目的は、いわゆる区民活動支援施設が、今後、どのような機能、あるいは役割を持つべきかについて、調査を深めていくというところです。</p> <p>それで、一つ、調査研究テーマ、これは文言の問題ですけれども、「区民活動支援施設機能の充実」というちょっと堅苦しい言葉になってございますので、前年年度の報告書は、もうちょっと洒落た感じになってはいますが、ここの文言は、再度事務局と相談・検討をさせていただければと思います。</p> <p>私からは、以上です。</p>
会長	<p>ただいまの事務局側の説明で、ほかご意見よろしいでしょうか</p>
中原委員	<p>テーマが、施設機能の充実ということですが、機能なので、ハードでなくて機能ということでもよろしいのかというのが一つの質問です。</p> <p>それと、なぜ中間組織が必要であるかというところを行政のサービスだけではできな</p>

	<p>いので、あるいは公的なサービスと、あるいは今、民間サービスと言いますか、地域のサービス。そこをくっつけるようなのが中間組織というイメージであれば、その辺のところをこの調査の中で、きちんと整理していく必要があって、先生がおっしゃったように。</p> <p>なおかつ、じゃあ、ここの機能は、こういう機能を持たせましょうかという論法になっていくというふうに思うんです。</p> <p>その施設をどうこうというよりも、地域の課題を解決するためには、行政じゃなくて、地域の主体である区民の自主的な活動というのが必要であって、そのための機能を兼ね備えた区民活動施設という論法で、それをどうやって運営をする機能を高めていくかというところになっているかな、中間組織というのがあるような気がするんで、その辺を調査研究の中で明らかにどういう方向を区として目指していくのか。区民協働という冠の中でどうしていくか。そこが重要になっていくと思うんですが、いかがでしょうか。</p>
会長	<p>非常に貴重なご意見いただきましたけど、いかがでしょうか。</p>
濱住委員	<p>ちょっと補足といいますか、ちょっと私見も入りますけども、うちの団体は、昔から、10年ほど前からm i c sさんとこらぼさんといろいろやっていただきまして、つながっていますけども、そういう中での感触についての話になります。非常に二つの施設とも、NPOをこれから始めるだとか、あるいはこのスタートアップ助成金を申し込むときとかも、申請する方とか、そういう団体を起動するまでのサポートは、非常に充実してきたかなという実感があります。</p> <p>ただし、中長期ビジョン、例えば団体が固まってきて、3年後、5年後やるときの組織基盤強化だとか、あるいは資金調達。助成金が切れたときには、じゃあ、どうやってお金を集めるかということ、例えば、寄付を集めるためにやるとかということについては、まだまだこの施設に関しては、まだまだかなと思います。例えば、ファンドレイザーさんも、そこに私の知っている限りは、いたこともございませんので、ここは、どこまで強化するかというのがありますけども、もしも、団体、中期長期的なところも今後は、支援していきたいということであれば、まずは、現状をしっかり支援して、どういうところの部分をしっかりやってきたかということ、まず、見える化することが大事かなというふうに思いました。</p>
会長	<p>ほかにご意見ありますでしょうか。</p>
安武委員	<p>私は、今回、気になっているのは、情報発信・広報についての支援というところです。</p> <p>区民活動ということで動いていて、来年の2月に消費者生活センターのほうで、私どもの団体が参加させていただくということで、今回、図書館とか、学校にチラシを置くということで、広報活動していただくということをしているんですけども、今の時代、SNSとか、そういったところというのは、非常に強化しないといけないと思うんです。区民活動は、すごくいいことやっていたり、魅力的な取組をやっている所があるんですけども、結局、誰にも知られていないとあまりやっぱり意味をなさないとか、どんど</p>

	<p>ん縮小していくというのを思うんです。</p> <p>その部分について、今年、また4月からですけれども、あまり大きな動きがあるようには思えてなくて、これを知っていただくというのが一番重要なのかなと思います。</p> <p>今回、日本生命さんと第一生命さんに来ていただいたりとか、こういった感じでお話ができるところをもうちょっと生かせないかなというふうに、そこをやっぱり官民協働じゃないですけれども、ドイツの例でいくとメルセデス・ベンツさんが、そういった取組とか、会社でここはその生涯雇用とか、きっちりあったりとか、アピールもいろんなことやっているというので、もっとせっかく来ていただいているので、区と何か連携という形が、ちょっとお力を貸していただくところにも踏み込んだほうがいいのではないかなというふうに、今、考えているんですけど、その点はいかがですかね。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。全くそのとおりでございますね。やはり、具体例みたいなものをちょっとこういうときに出してもらえば、参考になるということもございます。漠然とものをやるというのは模索しますから、探りを入れながらやる。例があれば、より一層やりやすくなるということがございますので、事務局、どうでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>安武委員からは、以前そういったお話をいろいろおっしゃっていただいて、2月のフォーラムにもご参加いただいた中で、これは、どういう情報を発信していくか、安武委員のみならず、ほかの団体様からも、すごく頂戴するお声です。</p> <p>それで、オーちゃんネットというサイトを我々は、運営はしているんですが、こちらもちょうと可能な限りカスタマイズであったり、リニューアルというものも検討しながら、なるべく使い勝手が良く、より多くの方に区民活動を知ってもらうツールとして発展させていこうとは思っています、なかなかその仕切りの中でやるには、やりたいことがなかなかできない限界もあったり、もどかしいところもありまして、ただ、今、おっしゃったような、我々だけで抱え込んでやるっていうことではなく、いろんなその委員の方の力をお借りしたりとか、考えていきたいです。</p> <p>ただ、この区民活動支援施設機能の充実というところに挙げさせていただいたのは、先ほどの中原委員とかにもいただいたお話にもあるように、ただ、施設の話をするということでは、もちろんおっしゃるとおりそうではなく、ここの機能が一番の根幹になりまして、その中に中間支援機能というところには、上の情報発信とか、広報というところも大きく関わってくるところかなというふうに認識しております。</p> <p>ですので、その情報発信というものの在り方を、行政だけではなく、民の力も借りながら、よりリアルタイムで今の時流に合った形で、皆さんに届けられるものも模索できればというところで、そういったものを含めてこのテーマに盛り込めたらなど、ちょっと欲張りではあるんですが、考えているところではありますので、いろんなアドバイスもいただきながら、検討してまいりたいなというふうに思っております。ありがとうございます。</p>
<p>中原委員</p>	<p>多分、中間支援の機能とか、中間組織とかというのは、きっと、地域の方々、区民の方々、分かりにくいと思うんですよ。</p>

	<p>特に、公的な、フォーマルな部分の行政が担う責任がある部分と、それから、インフォーマルって言いますか、住民が担う機能とかが、これがばらばらに存在するのではなくて、それが合わさっていくというのかな。だから、それを公的な部分と私的な部分というか、インフォーマルな部分とフォーマルな部分を何て言うんですかね、くっつける接着剤というか。</p> <p>その辺が、中間支援みたいところだなというふうに、私は、何かイメージ的に描いているんですが、その辺のところをきちんと研究するというか。これができたら、やっぱりさすが大田区というふうになるような気がしますし、それが、連携協働の姿みたいになるような気がします。</p> <p>私ごとですけど、町会の仕事をしておりまして、町会の仕事は、どこの町会も最も行政指導によるものが非常に多いですけども、同じ仕事をしているから、隣の町会、近隣町会と、じゃあ、集まって何かを合同でやることはありませんかと話し合おうと常にしますが、なかなかそれすらできないんです。</p> <p>今、中原委員がおっしゃったように、何とか打開しないと、これは、育っていかないんじゃないかと思っているんですよ。</p> <p>それで、今、私、一つやっていることは、本当に隣接町会と気の合った町会長と3人ほどおりまして、一緒にやりませんかと声をかけているのは、遊びから入っていきます。例えば、盆踊りだとか、お祭りだとか、運動会だとか、そういう行事をやったときに一緒にやりましょう、これから、入るんです。</p> <p>それで、ふだん役員がいろいろ動いて仕事をしておりますけれども、遊びとなりますと、役員関係なく、一般から応募をしてどうぞというわけで、ある程度人員は、きちっと定員数を決めていきますけれども、まあ先着順にということで、それをやっております。</p> <p>だから、仕事というと、非常に難しいんですが、遊びから入っていきますと、割と一つや二つは、打開できるんじゃないかということを考えています。同じ町会の仕事をやっても、盗めないですから。</p>
<p>会長</p> <p>中平委員</p>	<p>m i c s おおたのスタッフで3年目です。皆さんからの要望も聞いて、より充実してできたらなと思いますけども、例えば、m i c s おおたは、消費者生活センターと隣接してあるわけですよ。</p> <p>まず、m i c s おおたと看板が出ているけど、m i c s おおたとは何かと、誰も知りません。この組織は何ですかと。まず、入り口をうろうろして、ここは何をしてくれる所、どんな組織なんですかって聞かれるんですよ。</p> <p>そうしたら、説明するんですけど、それはm i c s おおたを説明するものは、入口には何もなかったのので、大きな看板を作りました。ここは、区民活動支援施設でm i c s おおたと言いますって、どんなことができます、どんな所とかと、でっかい看板を作って、そこを讀んでもらえると、この組織が一目に分かるように。コピーが出来ますとか、オーちゃんネットに登録すればビラが置けますとか、そういうのを分かるようにしました。</p>

	<p>それなりに努力していますけども、中間支援施設を充実するのは、非常にいいことだと思います。</p> <p>以上です。</p>
牛山委員	<p>ありがとうございます。今、いろいろ、多々ご意見いただきましたし、様々な事例と いますか、取組も伺って、やっぱりこの中間支援組織、名前がどうかは別として、 これが充実してくることが非常に重要で、私の印象では、市町村は結構もう、実は、割 と行政が直営でやっている所が多くて。これは、私の印象では、やっぱり財政的にまだ、 割と直営でやってきたんですけど、やはりなかなかそれも難しくなってくるし、やはり 市民の皆さんの活動は、やっぱり市民の皆さんも、その中間的なその組織で支援する とか、あるいはもうなかなか社協とか、自治会連合会とか、いろんな所が一緒になって 応援していく、中原委員がおっしゃられたような具体的な取組をどうしていくかとい うことを、まさに、今、いただいたご意見のように、今回、調査・研究して、大田区 では、そういう23区のいろんな状況も踏まえて、こうやっていくんだっていうのを出 してあげると、まさに本当のその先に行く大田区の取組が出てくると思いますので、 ぜひ、その研究を進めていければというふうに私も思います。よろしくお願 います。</p>
会長	<p>事務局、よろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>はい、ありがとうございます。よろしくお願 いたします。</p>
会長	<p>はい。では、次に進めさせていただきます。協働取組事業の事例について、事務局、 説明をお願いします。</p>
事務局	<p>前回の区民協働推進会議では、芦川委員と濱住委員から、これまで取り組んできた事 業についてご紹介いただきました。発表いただいた事例を委員の皆様と共有して、今後 の活動等に参考にさせていただきたいと考えております。</p> <p>本日の区民協働推進会議では、安武委員と日本生命保険相互会社様の久保様と前田様 から事例をご紹介します。</p> <p>それでは、初めに、安武委員より事例のご紹介をいただきます。よろしくお願 いたします。</p> <p>《安武委員の事例発表》</p> <p>《日本生命の事例発表》</p>
会長	<p>はい。予定しておりました議題は、以上で終わりでございます。</p> <p>最後に地域力推進部長から挨拶をお願いします。</p> <p>《地域力推進部長挨拶》</p>

会長	事務局のほうから、ほかに報告事項はありましたらお願いいたします。
事務局	<p>1点だけ、報告になります。</p> <p>こちらが、中島会長宛に要望書というのを承りまして、概要としては、大田区民活動団体連絡会という、約60にのぼる大田区にある区民活動団体の連合体みたいな形で、会員が個人も含めて、多くの会員を束ねる会があり、濱住委員が所属する大田NPO活動団体交流会、それと並ぶ大田区民活動団体連絡会という会がございます。</p> <p>先ほど、中間支援のお話もありましたけれども、区民協働推進会議で協働ということをごういった場でお話をして、ぜひ、この会議体に参画したいという要望が会長宛に届きまして、そういったものがありましたということをごう伝えさせていただきます。</p> <p>今の要望につきましては、前向きに検討させていただくのでよろしいでしょうか。</p>
会長	<p>よろしいですね。</p> <p>では、次回の推進会議の日程について、事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>今後の日程について説明します。第5回は、2月になりますが、書面開催という形で開催させていただきます。</p> <p>第6回、今年度最後になりますが、3月中旬頃を予定しております。また、日程の詳細は、追ってご連絡させていただきます。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、時間が迫ってまいりましたので、この辺で会議を終了させていただきます。</p> <p>本日は、本当に皆様、ありがとうございました。</p> <p>《閉会》</p>